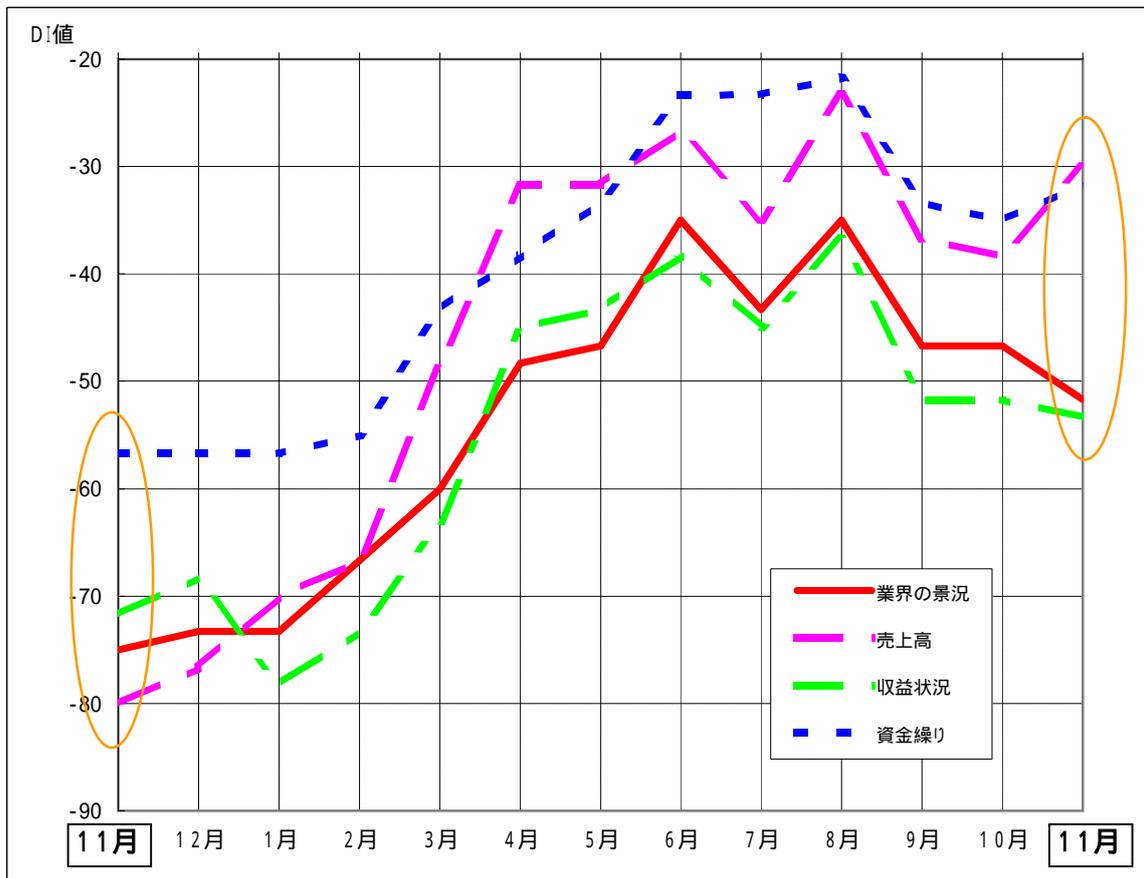


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値 平成21年11月～平成22年11月

単位:ポイント



	H21		H22										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
業界の景況	-75.0	-73.3	-73.3	-66.7	-60.0	-48.3	-46.7	-35.0	-43.3	-35.0	-46.7	-46.7	-51.7
売上高	-80.0	-76.7	-70.0	-66.7	-48.3	-31.7	-31.7	-26.7	-35.0	-23.3	-36.7	-38.3	-30.0
収益状況	-71.7	-68.3	-78.3	-73.3	-63.3	-45.0	-43.3	-38.3	-45.0	-36.7	-51.7	-51.7	-53.3
資金繰り	-56.7	-56.7	-56.7	-55.0	-43.3	-38.3	-33.3	-23.3	-23.3	-21.7	-33.3	-35.0	-31.7

11月のDI値は前年同月に比べ、全項目が10ヶ月続けて改善した。「業界の景況」DI値は23.3ポイント、「売上高」DI値は50ポイント、「収益状況」DI値は18.4ポイント、「資金繰り」DI値は25ポイントとそれぞれ改善した。前月比で見ると、「業界の景況」は5ポイント、「収益状況」は1.6ポイントの悪化、「資金繰り」は3.3ポイント回復した。「売上高」は、前月比で8.3ポイント回復したものの、製造業を中心に受注量の減少、販売価格の下落傾向が広まるなど、収益環境の悪化傾向を示している。海外製品との価格競争や原材料費の高騰の影響も大きく、先行きを不安視する声が高まっている。

組合の特記事項からは、製品価格の引下げ要求と原材料価格の高騰は、産地を崩壊させるとの強い危機感を述べる声(絹織物業)のほか、鉄鋼・金属製造業、一般機器製造業では受注量の減少、単価の下落があったという声、商店街、サービス業などでは売上が減少したという声があった。製造業・非製造業ともにイベントを企画するなど、消費の拡大を図ろうとする声もあった。